

2

研修 地域移行を考える

ノーマルってなんだろう？ 良い暮らしってなんだろう？
対話からはじまる地域移行への第一歩。

概要

ノーマライゼーションの育ての親と言われるベクト・ニリエは、その原理を「社会の主流となっている規範や形態にできるだけ近い、日常生活の条件を知的障害者が得られるようにすること」と定義しています。11月、福祉社会学・社会福祉学を専門とし『当たり前をひっくり返す バザリア・ニリエ・フレイレが奏でた「革命」』などの著書がある竹端寛先生による研修を開催。研修は「どういう人が地域移行可能？ どういう人が不可能？」という質問を起点としたグループでの対話からスタート。さらに先生からは「あなただったらどう？」「それは誰にとっての難しさ？」など、掘り下げる質問が続きます。1人ひとりの認識や考えの違いを知る。いつの間にか前提としてしまっていた当たり前気づき、保留してみる。「できるかどうか？」ではなく「どうしたらできるか？」に視点を置きかえてみる。対話を軸とした研修は、そんな体験を得るとともに、その重要性に気がつく時間となりました。「利用者さんのより良い暮らしとは？」改めて、そんな問いに向き合いながら、支援の見直し、地域移行の実践に向けた活動を進めていきます。

DATA

- 開催日：令和2年11月6日（金）
- 講師：竹端寛先生（兵庫県立大学環境人間学部准教授）
- 参加者：約40名（ひだまりの里きよせ、すだちの里すぎなみ、法人本部職員）
- 場所：ひだまりの里きよせ 地域交流スペース他（オンラインにて実施）
- ひだまりの里きよせ 担当者：仁田坂（施設長）、赤川（支援係長）

